

「病院図書館員のライブラリアンシップに関する アンケート調査」の集計結果について

松本 純子（住友病院図書室）
山崎 捷子（淀川キリスト教病院図書室）
小川 文子（関西鍼灸短期大学図書館）
小田中徹也（国立京都病院図書室）
首藤 佳子（星ヶ丘厚生年金病院図書室）

1. アンケート実施時期 昭和 63 年 7 月

2. アンケート項目

A 図書館員へのアンケート項目

- (1) 年齢 (2) 性別 (3) 所属施設の種類 (4) 司書資格の有無 (5) 資格取得方法
- (6) 図書館員としての経験年数 (7) 勤務形態 (8) 役職について
- (9) 図書館員を職業として選んだ理由 (10) 現在の職場を選んだ理由
- (11) 病院図書館員の役割として重要と思うものは何か
- (12) 職場では図書室に何を期待していると思うか
- (13) 図書室はその期待に応えられていると思うか
- (14) 現在、あなたが最も力を注いでいる仕事は何か
- (15) 病院図書館員として、特に必要性を感じる知識、あるいはあなたが是非学びたいと思う分野は何か
- (16) 病院図書館員の専門性について管理・運営、資料の収集・整理、図書館サービスのそれぞれの面で最も必要と思うものは何か
- (17) 図書館員として最も必要と思う資質は何か
- (18) 現在の仕事に対する満足度
- (19) これからの病院図書室および図書館員の専門性についてどう考えるか

B 管理者へのアンケート項目

- (1) 図書室の設置目的は何か
- (2) 図書室はその役割を果たしていると思うか
- (3) 図書室担当者の研修は必要だと思うか
- (4) 適当と思われる図書室予算はどのくらいか
- (5) 病院図書館員に司書資格は必要だと思うか
- (6) 図書館員を専門職だと考えるか

(7) 適切な医学情報サービスをするにはどうしたらよいと考えるか

3. 集計結果

A 図書館員へのアンケート

回答数 98名 回収率 58%

<フェースシート>

- (1) 年齢
- | | |
|------|-----------|
| 20歳台 | 32名 (33%) |
| 30 " | 42 (40%) |
| 40 " | 21 (21%) |
| 50 " | 3 (3%) |
- (2) 性別
- | | |
|----|----------|
| 男性 | 6名 (6%) |
| 女性 | 92 (94%) |
- (3) 所属施設の種類
- | | | | |
|-------|-----|------|----|
| 病院 | 87名 | 看護学校 | 2名 |
| 大学・短大 | 2 | 研究所 | 3 |
| 専門学校 | 1 | その他 | 3 |
- (4) 司書資格の有無
- | | |
|---------|-----------|
| 司書資格あり | 65名 (66%) |
| 司書補資格あり | 2 (2%) |
| なし | 31 (32%) |
- (5) 司書資格取得方法
- | | |
|------------|----------|
| 大学の図書館学科 | 4名 (4%) |
| 大学の司書課程 | 21 (21%) |
| 短大の司書課程 | 17 (17%) |
| 図書館短大 | 3 (3%) |
| 文部省図書館員養成所 | 2 (2%) |
| 司書講習 | 12 (12%) |
| 司書補講習 | 2 (2%) |
| 通信教育の課程 | 5 (5%) |
| 受験経験なし | 31 (32%) |
| その他 | 1 (1%) |
- (6) 図書館員としての経験年数
- | | |
|-------|-----------|
| 1年未満 | 12名 (13%) |
| 5年未満 | 25 (26%) |
| 10年未満 | 23 (24%) |
| 15年未満 | 14 (14%) |
| 20年未満 | 19 (19%) |
| 20年以上 | 4 (4%) |
- (7) 勤務形態
- | | |
|-----|-----------|
| 専任 | 58名 (59%) |
| 兼任 | 36 (37%) |
| その他 | 4 (4%) |
- (8) 役職について
- | | |
|-----------|-----------|
| 役職についている | 12名 (12%) |
| 役職についていない | 85 (88%) |
| 不明 | 1 |

主任 (2名)、チーフ、主査、補佐役、図書病歴課長心得、医学資料室係長、
研修係長兼図書係長、病歴図書管理課図書係長、図書管理係長、図書病歴係長

⑨ 図書館員を職業として選んだ理由

本（読書）が好きだから	24名
業務命令による人事異動や配属によって	14
資格を取りたかった、あるいは資格を生かしたい	11
特別な動機なし	10
自分に向いている	9
兼務なので必然的に	6
女性の一生の仕事として適切だから	4
図書館や司書に興味と憧れを持っていたから	4
専門職だから	3
派遣職員のため、会社命令で	2
公務員試験に合格し条件を勘案して	1
やりがいのある仕事だから	1
地域の人や専門職の人の知的活動に役立ちたい	1
一事務員で終わりがたくない	1
先輩に勧められて	1
対人関係が少ないと思えたから	1
子供によい本を選びたいから	1
ハードワークでないから	1
さまざまな学問分野への興味があったから	1
レファレンスワークに関心があったから	1
長く勤務できるから	1

⑩ 現在の職業を選んだ理由

紹介によって	20名
業務命令による人事異動・配属	15
偶然に	12
自宅から近いから	7
司書資格を生かしたいから	6
公共図書館勤務の志望が叶えられないため	5
医学分野に関心があったから	3
病院の事務系の仕事をしたかったから	3
求人があったから	2
医療事務職の資格を持っていたから	2
勤務条件が良いから	1
経済的な理由から	1
安定した職場であるから	1

学校図書館勤務の志望が叶えられないから	1名
奉仕精神が発揮できるから	1
やりがいのある仕事だから	1
システム作りに関心があるから	1
医療に役立つ職場であるから	1
家事都合のため	1
医療関係で働きたかったから	1
会社からの派遣で	1

＊職業として図書館員を選んだ理由は個々には上記のとおりであるが、これをまとめてみると、積極的に選択をした人は「本好き」「自己の適性」等の極く個人的な理由や職業に対する積極的な評価が理由になる場合も併せると62%になっている。これに反して、人事異動や「動別な動機がない」等の非積極的な理由から図書館員を仕事にしている人は全体の33%であった。

＊現在の職場を選んだ理由についても、個々には上記のとおりであるが、詳しく見てみると紹介や業務命令等による配属、偶然に等の理由が57%もあり、また公共図書館や学校図書館で働きたい、あるいは司書資格を生かしたかったかと思うようにいかなかったために病院図書館員になった人が12名いる。積極的に病院や医学分野で働きたかった人は10名に過ぎない。

＊従って、当然といえば当然のことであるが、病院図書館員の職業選択の理由としては「図書館員」にはなりたかった人が多い反面、病院の図書館員を初めから目指していた、あるいは積極的に選んだ人は大変少ないといえる。

<意識調査>

(1) 図書館員の役割として重要と思われるものをその順番に3つ挙げると。

	順位(1)	順位(2)	順位(3)
1. マネージメント	13名	4名	6名
2. 資料の収集	22	12	7
3. 資料の整理・保管	33	28	12
4. レファレンスサービス	25	33	24
5. 利用者指導	1	5	11
6. 相互協力		11	15
7. 参考業務に必要な インフォメーションファイルの整備	1	2	17
8. その他	0	0	0

(2・1) 職場では、図書室に何を一番期待していると思うか。

1. 資料や図書の収集と整理	43名
2. 文献検索と入手 (情報や資料の迅速な入手と提供)	36
3. レファレンスサービス	14
4. 新しい情報や総合的な情報の提供	5
5. 利用者のニーズに応えられること	4
6. 相互貸借	3
7. 読書空間として期待	3
8. 資料の管理	3
9. 簡易な図書の利用	2
10. 地域や院内での情報センターの役割	2
11. 希望する図書の購入	1
12. 研究活動・臨床経討の援助	1
13. 司書のサービス業務	1
14. 利用者の学習援助	1
15. 利用者に対する雑務も含めた協力	1
16. 血液事業に対する図書の整備	1
17. これ以上のコストがかからないようにすること	1

*この設問では、管理者が図書室に期待するものと利用者が期待するものとを分けていないので、回答にはそれが混在しているようである。恐らく利用者が最も図書室に期待するものとしては、「資料・図書の収集と整理」は当然として、文献検索、情報の迅速な入手と提供等であろう。大きく分類すると、資料の収集管理(約51%)情報の検索・入手・提供(約63%)、利用者への学習活動援助や協力(約4%)等となっており、読書空間としての役割等環境面を挙げる人は少なかった。

(2・2) 図書室はその期待に応えられていると思うか。

はい	34名 (35%)
いいえ	55 (55%)
不明	9 (9%)

*なぜ、期待に応えられないか。

1. マンパワーに問題 人数、能力、勤務体制等	20名	4. スペース不足	6名
2. 資料の不足	16	5. レファレンストウールの不備	5
3. 予算の不足	12	6. オンライン端末機の設備がない	3
		7. 図書室に対する認識が不足	3

8. 図書室の位置が問題	3名	15. 相互貸借が認めてもらえない	1名
9. 図書・資料の未整備	2	16. 郵便事情が悪い	1
10. 雑用が多い	2	17. 配置転換が多い	1
11. 設備が不十分	2	18. レファレンスサービスを未実施	1
12. 検索サービスが実施できていない	2	19. 利用者が少ない	1
13. 目録の不備	1	20. 図書室の機能が確立していない	1
14. 図書の中央化がまだできていない	1		

*管理者や利用者が期待していることに関して、担当者がその期待に応えられていると考えているかどうかを聞く質問には上記のような回答があった。「期待に応えられない」とする回答の内容を大きく分けその傾向を見ると、資料や予算の不足を挙げた人が33名、人の問題（人数や能力、勤務・雇用形態）を23名が挙げている。また、図書室の位置やスペース、機器の未整備等施設環境面を挙げた人が15名いた。その他図書室に対する認識の不足や機能についての認識不足、あるいはサービス面での弱点が挙げられている。

(3) 今、最も力を注いでいる仕事は何か。

1. 図書館業務、資料管理のコンピュータ化	17名
2. 受入れ図書の整理（欠号、未着の処理、分類、目録作成 ETC.）	17
3. オンライン文献検索	12
4. レファレンスサービス	6
5. 図書の整備（収集・保管等）	5
6. 相互貸借	4
7. ネットワーク作り	3
8. 利用者の定着・拡大	3
9. 蔵書管理	3
10. 利用者指導	2
11. レファレンストールの作成 （プライベートミニデータベースの構築等）	2
12. 図書室のマネージメント	2
13. 分類変更作業	2
14. 資料および情報の収集	2
15. 院内における存在価値の向上	1
16. スペースの要求	1
17. 患者サービス	1
18. PR活動	1
19. 各種統計の集計と解析	1
20. 雑誌利用状況調査	1
21. 図書館サービスの強化	1

22. 図書館のO A化	1名
23. 図書の除籍(廃棄)	1
24. 書架整理	1
25. 医師の手伝い	1

*上記の項目を分類してまとめてみると、以下のようになる。

レファレンスワーク	26名
資料の整理	23
図書館業務にコンピュータ、O A化等の機械化	18
資料の収集、廃棄等COLLECTIONに関すること	8
図書館のマネージメント	6
利用者の拡大、利用者指導等	5
ネットワーク作り	3
調査活動	2
医師の手伝い	1

(4) 病院図書館員として必要性を感じている知識や学びたいと思う分野は何か。

1. 語学(特に英語)	49名
2. コンピュータの知識	40
3. 医学専門分野の基礎知識	33
4. 図書館学	17
5. 医学用語	16
6. オンライン文献検索の方法	5
7. レファレンストゥールの使い方	4
8. インタビュー技術	2
9. レファレンスサービスの方法	2
10. 情報管理	2
11. 図書館のマネージメント	2
12. 統計学	1
13. 心理学	1
14. 化学	1
15. 速読法	1
16. 一般教養	1
17. 外国の出版事情	1
18. 情報処理学	1
19. タイプライターの技術修得	1

(5) 図書館員の専門性に関連して、現在最も必要と思うものは何か。(必要順に3つ挙げること)

A 管理・運営

	順位(1)	順位(2)	順位(3)
1. 専門職として扱ってほしい	41名	12名	12名
2. コンピュータの知識・技術	25	43	17
3. 図書館員に管理・運営の ための能力をもたせる研修	24	28	33
4. コスト管理	2	3	21
5. その他	2*	3	2

*司書という職種の理解

B 収集・整理

	順位(1)	順位(2)	順位(3)
1. 図書館員が資料の選択にあたる	13名	5名	8名
2. 語学力の強化(外国語の知識)	20	12	16
3. 整理技術の知識の充実	21	12	9
4. 図書に関する知識 //	13	10	5
5. 情報管理に関する知識 //	7	18	15
6. データベース情報検索に関する知識	2	24	19
7. 扱う専門分野の知識 //	17	12	19
8. その他	1*		

*利用者のニーズ、使い易さを配慮した図書の収集、配架

C 図書館サービス

	順位(1)	順位(2)	順位(3)
1. 参考図書に関する知識	5名	8名	8名
2. 利用者のニーズに応じた知識の充実	57	11	5
3. 卒後教育に対応した図書館サービス		5	2
4. 資料・文献についての研究	6	10	3
5. コンピュータ・ネットワークによる 情報管理についての知識	4	13	17
6. 広報活動の強化	1	5	7
7. 二次資料の作成と活用能力の向上	3	16	5
8. 書誌作成能力の向上		1	3
9. 利用者との円滑なコミュニケーション やネットワーク	7	13	15
10. 専門分野の知識の充実	9	10	25

(6) 図書館員として最も必要と思う資質は？

	順位(1)	順位(2)	順位(3)
1. 図書館資料に対する愛着心	12名	10名	8名
2. 物事に対する探求心	23	18	13
3. 時代の変化に対応する能力	11	22	18
4. 正確な判断力と処理能力	30	28	15
5. 幅広い教養	9	7	18
6. 図書館活動に対する関心	6	8	20
7. その他	1*		1

*サービス精神

(7) 現在の仕事に満足しているか。

いいえ 51名(55%)

*不満足の原因

1. 兼務のため	11名
2. 自分の専門的な能力不足	10
3. 研修の機会が少ない	5
4. 予算が少ない	5
5. 待遇が良くない	4
6. 人手不足	2
7. 図書館に対する管理者の認識が少ない	2
8. 上司の理解がない	2
9. 図書館設備が不十分	2
10. 蔵書不足	1
11. 同僚がいない、トレーニング不足	1
12. 時間的、能力的にニーズに対応できない	1
13. もっと専門的なレベルに進みたいが、手段がわからない	1
14. 身分の不安定さ	1
15. 院内における図書室の必要性に疑問	1
16. 院内における図書室の機能が不明確	1
17. 図書館員としての専門性が認められない	1
18. 図書館員としての自信がない。	1
19. 組織の中で図書館独自の目的遂行ができてにくい	1
20. 人事配置に不満がある。	1
21. 配転の可能性がある	1
22. 雑務が多い	1
23. 図書館の位置に問題あり	1

*不満の理由をまとめると以下のようになる。

勤務体制、待遇等労働条件に関すること	21名
図書館員としての自己の能力や研修に関すること	19
予算や蔵書	6
図書館や図書館員に対する管理者の認識に関すること	6
図書館設備	3
業務上の不満（雑務が多い）	1
組織上の不満（独自の目的遂行が困難）	1

(8) これからの図書館のあり方、図書館員の専門性についてどう考えるか。

- 担当者の研修の機会を作るべき（11名）
 - *時代に合った知識や技術を
 - *院内に限らず社会的な要素も必要
 - *図書館一般に通ずる基礎的な資質の向上
- 病院司書の資格制度化を推進すべき（認定制度）（6名）
- コンピュータの導入を計り積極的なサービスを（4名）
- 図書館員の卒後教育が大切（自己啓発が最も大事）（3名）
- 図書館ネットワーク作り（3名）
- 図書館は情報サービスを提供する場所であるが、一方院内の憩いの場でもあることが望ましい（2名）
- 司書の地位向上を目指して法的な措置を（2名）
- 病院図書室は院内の情報センターのみならず、地域の情報センターとしての役割も果たすべき（2名）
- 担当者の処遇に問題あり（2名）
- 院内での図書室の存在意識をもっと明確にしてほしい（2名）
- 組織の中の1部門であるから、内部的な理解を得る努力をすべきである。特に事務部との関わりが大事
- 専門教育を受けた人を採用すべき
- 全国的なコンピュータネットワークを作るべき
- 図書館をコンピュータ化することと「読書の場」としての機能を持たせることの両方を考えるべき
- 所属機関の機能にあった図書館機能を明確にすべき
- 専門性は絶対的なものでなく、組織内で相対的に考えるべきで、担当者自身の専門性維持の努力が大事
- 現状分析をしっかりと、具体的目標を定め、現状打開に努めるべき

- ・職場の勤務形態を変革する必要がある
- ・機械化と同時にヒューマンリレーションを大切に
- ・病院図書室間のネットワーク作りをすべき
- ・地域的なレベルで他の館種の図書館との連携を計るべき
- ・司書資格そのものの見直しが必要
- ・図書室・図書館員の法的裏付けを
- ・司書養成教育の中に専門図書館向けのカリキュラムを
- ・専門性の育成に関して、経験年数毎の目標設定がなされるとよい
- ・図書館員は情報化社会に対応できるようにならなければならない
- ・ // レファレンスサービスのための専門的知識が必要
- ・ // 資料・情報のありかに精通し、求める情報は入手できるようにすべき

B 管理者へのアンケート

回答数 79名

1. 図書室の設置目的

	順位(1)	順位(2)
1. 病院図書・資料の整理と管理	26名	20名
2. 診療・研究のための職員の閲覧・自習室	18	19
3. 診療・研究のための充実した情報提供	30	33
4. 患者利用を含めた図書室サービス	1	3

2. 図書室はその役割を果たしているか。

はい 71名 (91%)

いいえ* 7 (9%)

*スペース不足(5), 予算不足(2), 設備・人員不足(2)

資料不足, 情報サービス機能が不足, 蔵書の内容が問題

3. 図書室担当者の研修は必要か。

はい 75名 (96%)

いいえ* 3 (4%)

*必要と思うが、現在の研修内容は疑問

4. 適当な図書室予算はいくらか。

平均 約870万/68名

5. 病院図書室に司書資格は必要か。

必要 65名 (82%)

不必要 14 (18%)

*資格より中味(4), 専門意識がないと専門職とはいえない(2),

資格と適正は必ずしも一致しない, 現在の図書室規模で特に資格者はいない

6. 図書館員を専門職と考えるか。

はい 72名 (91%)

いいえ 7 (9%)

7. 適切な医学情報サービスをするにはどうすればよいか。

	順位(1)	順位(2)	順位(3)
1. 現状維持でよい	5名	1名	3名
2. 予算を増やして資料の充実を計る	17	4	8
3. 病院図書室間の相互協力	29	28	9
4. 大学医学図書館の利用	6	35	16
5. 国立の医学情報センター設立の推進	15	7	33
6. その他	4	1	1